



有限会社
ファームやまね
代表取締役
やまね さこん
山根 左近さん

総面積130haの農地で、主に食卓米などを生産。大規模農地を効率的に運営するため、作業の機械化などに積極的に取り組む。

農事組合法人
ブレスファーム伊吹
代表理事
ほり い こうすけ
堀井 孝祐さん

主に食卓米や、伊吹在来そばの栽培を行っている。若者たちに地域農業の未来を託し、彼らの成長を日々見守っている。



農地の集約・大区画化で作業を効率化 持続可能な農業を模索

農業を離れる人が増え、田んぼの管理をお願いされることも多くなる中で、色々な場所に散らばった田んぼを都度移動しながら作業することが負担になっていました。そこで、「できるだけ田んぼを1カ所にまとめて、作業効率を高めたい」と考え、**農地の集約化・大区画化に踏み切る**ことにしました。

地域の方にご尽力いただいたおかげもあり、今ではかなり集約化が進んでいます。大型農機具の移動も楽になりましたし、少人数の作業でもかなり効率的に進めることができています。また、田んぼが大きくまとまることで作付けの自由度が上がり、自分たちの思うような栽培ができるようになりました。

ただ、自分たちに管理をお願いされる農地が増えるということは、それだけ農業を離れる人が増えているということだと思います。農業をする人とそうでない人との関わりも希薄になっている今、地域と農業を繋ぐため自分たちにできることは何か、そこを見極めながら、これからも頑張っていきたいと思っています。

▶市 農政課では、農業支援として各種施策に取り組んでいます。

- ・まいばら農業塾…地域農業の新たな担い手育成の場として、作付けから販売までを学べます。
- ・未来の担い手強化支援事業補助金…農業用機械の導入にかかる費用に対し補助金を交付します。
- ・大区画化等加速化支援事業…農業者による農地大区画化等の取り組みを支援します。
- ・農地集約化促進事業…農地バンクを活用した農地集約化に取り組む地域を支援します。

▶今年度すでに募集を終了している事業もありますので、詳しくは 市 農政課(☎53-5141)へお問い合わせください。



＼皆様のご意見をお聞かせください／

新シリーズ「マイバラ・クライシス」は、米原市の危機的な現状について、「市民の皆さまに、まずは知っていただきたい」と考えた新企画です。今回の「農業編」に関するご意見や感想、地域農業についてのご意見、また、今後この企画で取り上げて欲しいテーマなど、皆さまのご意見をぜひお聞かせください。

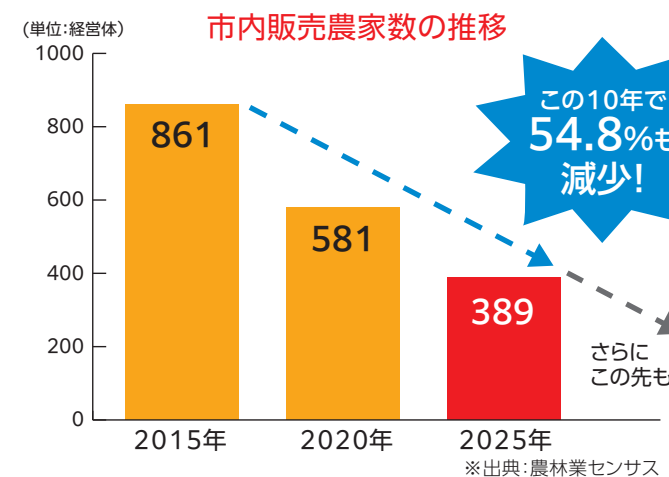


▲ご意見はこちらから
9月30日(水)まで
回答いただけます！

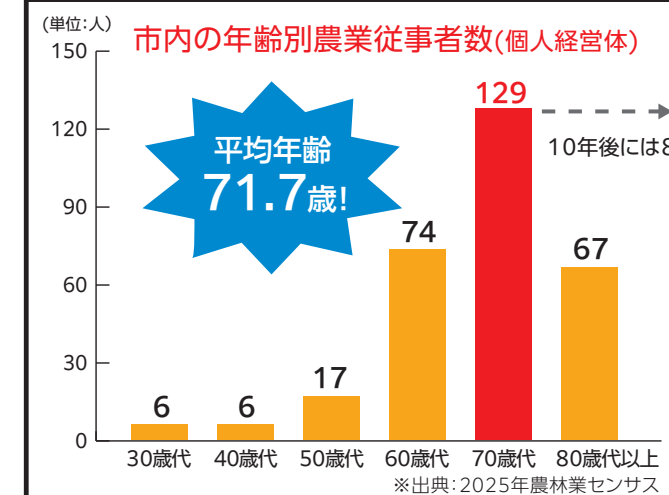
第1回 農業の担い手減少・高齢化で大ピンチ!? 危機脱却の一手とは



今、米原市の農業は危機に直面している。
今後さらに加速する人口減少や高齢化。それによる農業の担い手不足は深刻さを増す一方だ。
農業従事者の減少により管理する者がいなくなった田畑は、このまま耕作放棄地へと姿を変えてしまうのか。
私たちは近い将来、市内を彩る美しい田園風景を失ってしまうのかもしれない…
とにかく…



5年に1度実施される農林業センサスの調査結果を見ると、市内の販売農家数は減少し続けていることが分かります。
※経営耕地面積10a以上または農産物販売金額が年間15万円以上あった農家



さらに、年齢別の農業従事者数を見ると、高齢者層が圧倒的に多くの割合を占め、この先の農業を担う若い世代が極端に少ないことが分かります。
このままでは10年後、20年後には、農業の担い手がほとんどいなくなってしまうかもしれません…
※普段仕事として主に自営農業に従事している基幹的農業従事者数のこと

インタビュー
危機脱却の一手とは!?

ですが、こうした危機に立ち向かい、地域の農業を守るために頑張っている方がいらっしゃいます！

今、このまま何も手を打たなければ、近い将来あなたの家の近くの田んぼが変わり果てた姿になってしまうかもしれない…
それほど危機的な状況なのです。